



総合的な企業評価

おきなわ F B 短信 (3)

(1 分間で読めます。)

平成 21 年 2 月 17 日 (火)

財務による評価が、企業評価の中心であることは疑いの余地はない。

しかしながら、財務は結果的な面が主であり、企業の活動時点及び将来の評価という点では充分とは言えない。従って、財務で表現できない部分も加えた総合的な企業評価が必要になる。

まず、BSC (バランススコアカード) の視点を加えることである。

財務の視点はすでにあるので、企業の売上を支える市場や業務プロセスの安全性、効率性、そして人的資源の活用度など、即ち顧客 (市場)、業務 (プロセス)、従業員 (人間) の視点の追加である。

更に進めて、企業の継続性に欠くことのできない CSR (企業の社会的責任) の視点が加わると企業の価値はもっと明確になる。

市場と人間は BSC で済んでいるので、企業の存立基盤である社会と企業の経営資源の源である地球、即ち社会と環境の視点を加え、そして企業ガバナンスで締めくくれば企業の評価は総合的なものとなる。

総合すると次のような図となり、これなら安心して企業評価を利用出来るような気がする。

企業評価の視点

